図画工作科



伊藤　昇平　　新屋　桃子

研究の概要

【問題意識】

昨年度の研究においては、材料や場の設定等の学習環境を工夫することで、子どもが仲間とかかわり、自分にとって新しいものやことをつくりだしていくことが見えてきた。しかし、自分や仲間の活動や作品を鑑賞する中で、自分や仲間の活動や作品の造形的なよさに気付く姿や、その気付きを生かして自分の活動や作品をよりよくしようとする姿については課題が見られた。また、自分の表現の意図等について、根拠が明確でない姿も見られた。

【図画工作科における「観」とは】

○　既習や経験を基にした対象や事象についての造形的な捉え方

【図画工作科学習でめざす子どもの姿】

○　自分や仲間の活動や作品を鑑賞し、活動や作品の造形的なよさに気付く姿

○　仲間の活動や作品の造形的なよさから気付いたことを生かし、自分の活動や作品を再構成したり、その造形的なよさを改めて実感したりする姿

【研究内容１】

仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感するための学習環境の工夫

研究内容

1　仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感するための学習環境の工夫

図画工作科における「観」とは、「既習や経験を基にした対象や事象についての造形的な捉え方」と定義する。また対象や事象については以下のように捉えている。

※　対象…材料や用具、場所、作品のこと　事象…活動中に生じる出来事のこと

「観」は対象や事象とかかわりながら言動として表出すると考えている。子どもは、「観」を表出させながら、造形的な活動を行っている。子どもの１つ１つの選択の背景に「観」があり、その選択の積み重ねが作品として表れると考える。そのため、子ども同士が互いの「観」を知ろうとしたり、理解しようとしたりすることが、互いの活動や作品の造形的なよさに気付くきっかけになるだろう。さらにその気付きを生かして、活動や作品をよりよくしたり、その造形的なよさを実感したりするためには、学習環境を整えていくことが重要である。

そこで本年度は、以下のように学習環境（人・場所・時間）を工夫することで、互いの活動や作品の造形的なよさに気付いたり、実感したりすることができるようにする。

⑴　かかわる仲間の広がり

他学級の仲間や作品等とかかわる時間や場所等を設定することで、多様な「観」と出合うことができるようにする。仲間や作品とかかわる機会が多くなれば、多様な「観」に気付く機会が増えると考える。

⑵　視点の明確化による意図的な鑑賞の時間の設定や場の設定

題材計画や活動の導入等に意図的な鑑賞の時間を設定する。ここでは、ただ作品を鑑賞するだけでなく、活動や作品をみる視点を提示することで、その造形的なよさに気付くことができるようにする。さらに、気付いた造形的なよさを共有する場を設定することで、自分や仲間の活動や作品の造形的なよさについての根拠をもち、その後の活動や作品に生かすことができるようにする。

手立ての有効性については、抽出児の発話記録及び行動記録と作品、振り返り等を基に検証する。

第１学年２組　図画工作科学習指導案

授業提案者　新屋　桃子

１　題材名

みず＋くさばな＝なににになる？

２　題材の目標及び評価規準

Ａ表現⑴ア⑵ア、Ｂ鑑賞⑴ア、共通事項⑴ア、イ		
知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
植物などを使って色水をつくりだしたり、色水などを並べたりするときの感覚や行為を通して、形や色などに気付き、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくることができる。	植物の色やつくりだした色水などを基に、造形的な活動を思い付くとともに、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考え、自分の見方や感じ方を広げることができる。	楽しく植物などを使って色水をつくりだしたり、色水を並べたりする活動や鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
知識・技能	**思考・判断・表現**	**主体的に学習に取り組む態度**
①　植物などを使って色水をつくりだしたり、色水などを並べたりするときの感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。 ②　植物などを使って色水をつくりだしたり、色水を並べたりするなど、手や体全体の感覚などを働かせ､活動を工夫してつくっている。	①　植物の色やつくりだした色水などを基に、造形的な活動を思い付くとともに、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ②　自分たちのつくりだした色水などから、自分の見方や感じ方を広げている。	①　つくりだす喜びを味わい、楽しく植物などを使って色水をつくりだしたり、色水を並べたりする活動や鑑賞する活動に取り組もうとしている。

３　題材について

本題材は、身の回りの植物などを使って色水をつくりだしたり、つくりだした色水などを並べたりする造形遊びをする活動を通して、つくりだす喜びを味わい、形や色などにかかわり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育むことをねらいとしている。

水にホウセンカなどの花や葉を入れ、混ぜたり揉んだりすると色水ができる。同じ植物を用いても、水や植物の量によってつくりだされる色が異なる。また、植物そのものの色になるものもあれば、異なる色になるものもあり、自分の予想通りに色をつくりだすことは難しい。ビニル袋に入れて揉む、ペットボトルに入れて振るなど、色水をつくりだす過程も様々である。そのため、身の回りの植物の色、つくりだした色水、色水を入れる容器の形などを基に造形的な活動を思い付き、仲間とかかわりながら新たな活動を工夫してつくりだしていく姿が期待できる。

本題材を学習することは、仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感することにつながるため、意義深い。

４　子どもについて

子どもは、生活科学習において、育てたアサガオを使った色水遊びを経験している。また、幼稚園児とかかわる機会も多く、一緒にシャボン玉で遊ぶための計画を立て、実際に遊ぶ際に、相手を楽しませるために自分がやりたいことよりも年下の子どもの気持ちを優先しようとするなどの姿も見られた。図画工作科学習では、題材「ならべて　ならべて」において、第２学年の子どもと協力しながら、体育館にあるものを並べる活動を行った。その中で、同じ道具を集めて並べたり、サーキットのように見立てて道具を並べたりする姿が見られた。一方で、自分たちがやりたいことに夢中になる姿に留まり、仲間の活動の造形的なよさに気付き、それを生かしてよりよくしようとする姿はあまり見られなかった。

本児は、明るくはつらつとしていて、ムードメーカーのような存在である。周囲の様子を見ながら、率先して片付けをしたり仲間に声をかけたりするなど、先のことを見通し、人の役に立つことを考えて行動しようとする姿が見られる。図画工作科学習は、好きだと感じているようだが、活動が停滞する姿も見られる。これは、うまくいくか分からないという不安の表れから、自分の思いを表出することに躊躇する気持ちがあるからではないかと考える。学級の仲間のアドバイスを基に、活動し始めることもあるが、次につながらないことも多い。本時では、４年生と互いのつくりだしたものをみせ合ったり、試したりする時間を設定する。同級生よりも経験豊富な４年生と一緒に考えたり、教えてもらったりする中で、自分の思いを表出するとともに、仲間の活動の造形的なよさに気付き、自分の活動をよりよくしようとする姿を期待したい。

５　研究内容

本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

自分たちがつくりだした色水や４年生が染めた布を鑑賞する中で、既習や経験、仲間と対話したことを基に、造形的な活動（色のつくり方、材料や場を生かした並べ方など）を思い付く姿。思い付いたことを基に、対話したり試したりしながら、造形的なよさ（植物などを使って色をつくりだすことの面白さ、つくりだした色水などを並べたり飾ったりする楽しさなど）に気付き、自分の活動を再構成したり、そのよさを改めて実感したりする姿。

１：仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感するための学習環境の工夫

本題材では、「自然物でつくりだした色」という共通点や、材料や活動に相違点がある「布を染める」という経験をした４年生と合同で鑑賞したり、実際に活動したりする時間や場を設定する。まず、１年生だけで植物を使った色水遊びをする時間や場を設定した後に、４年生と合同で互いの活動について紹介し合う鑑賞の時間を設定することで、新たな造形的な活動を思い付くことができるようにする。さらに、思い付いたことを実際にやってみることができるようにするために、実習生講義室を自然の色美術館へと変身させる時間や場を設定する。そうすることで、対話したり試したりしながら、互いの活動の造形的なよさを実感することができるようにする。

本時では、４年生と合同で鑑賞し、互いの活動について紹介し合う時間を設定する。その際、互いの共通点や相違点などを探すよう促すことで、似たような植物を使っていても、つくり方や材料によってつくりだされるものの形や色が異なることに気付くことができるようにする。さらに、実習生講義室を自然の色美術館に変身させるためにできそうなことについて、話し合ったり実際に試したりする時間を設定する。その際、「色づくり」「色の使い方」の２つの視点を提示するとともに、前時の活動の様子の写真などを展示しておくことで、自分の活動の再構成の仕方（他の材料や方法で色をつくりだすなど）を考えたり、互いの活動の造形的なよさ（つくりだした色水などを並べたり飾ったりする楽しさなど）に気付いたりするとともに、新たな活動を思い付くことができるようにする。

６　題材指導計画（５時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	思・判・表	態
生み出す(2)	1　身の回りの植物を使って、色水遊びをし、できた色水を使った工夫について考える。〈２時間〉 ○　植物からつくりだされる色への気付き ・「オシロイバナで赤い色ができるな。」 ・「ペットボトルを振っても、あまり色は出ないな。」　等 ○　題材計画 ○　できた色水を使った活動の工夫 ・「みんなの色水を並べたら綺麗だね。」 ・「紙に絵が描けるかな。」 ・「布に付けたら色が付くかな。」 ・「もっと綺麗な色にするために、同じ色の花を集めたいな。」　等	○　以下のような時間、場の設定や、材料の工夫をすることで、身の回りにある植物からつくりだされる色に気付くことができるようにする。 ・　校内を自由に散策しながら、植物を探す時間の設定 ・　色水をつくりだすための透明な容器や袋などを自由に選ぶことができる場の設定　等 ○　以下のように、材料や場の設定の工夫をすることで、できた色水の造形的なよさに気付いたり、そのよさを生かした新たな活動を思い付いたりすることができるようにする。 ・　全員のつくりだした色水を１か所に集めて鑑賞する時間や場の設定 ・　既習や経験を想起させる写真などの提示 ・　様々な形の容器、画用紙や布など、つくりだした色水のよさを生かせる材料の提示	① 行動分析	① 行動分析 発言分析	
本時 挑む(1)	2　４年生と、互いがつくりだしたものを紹介し合い、実習生講義室を自然美術館に変身させるためにできそうなことについて話し合う。〈１時間〉 ○　新たな造形的な活動の発想 ○　互いの造形的な活動のよさ	○　子どもの思い付いた活動を「色づくり」「色の使い方」の２つの視点で整理して掲示するなどしておくことで、新たな造形的な活動を思い付くことができるようにする。		② 行動分析 発言分析	
生かす(2)	3　４年生と、つくりだしたものなどを使って、実習生講義室を自然の色美術館に変身させる。〈２時間〉 ○　自然の色美術館にするための工夫 ・「ブルーベリーで、青色がつくれるかな。」　等	○　実際に実習生講義室を変身させる時間を設定することで、活動を工夫してつくりだしながら自然の色美術館に変身させ、その造形的なよさを実感することができるようにする。	② 行動分析	①	①

第４学年２組　図画工作科学習指導案

授業提案者　新屋　桃子

１　題材名

自然の色で　すてきもよう

２　題材の目標及び評価規準

Ａ表現⑴ア⑵ア、Ｂ鑑賞⑴ア、共通事項⑴アイ		
知識及び技能	**思考力、判断力、表現力等**	**学びに向かう力、人間性等**
植物などを使って布を染めるときの感覚や行為を通して、染めたときにできる色などの感じが分かり、材料や用具を適切に扱うとともに、手や体全体などを十分に働かせ、活動を工夫してつくることができる。	植物などの色、布を染めたときにできる形や色、場所などを基に造形的な活動や新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えて、自分の見方や感じ方を広げることができる。	進んで植物などを使って布を染める活動や鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
知識・技能	**思考・判断・表現**	**主体的に学習に取り組む態度**
①　植物などを使って布を染めるときの感覚や行為を通して、布を染めたときにできる色などの感じが分かっている。 ②　材料や用具を適切に扱うとともに、手や体全体などを十分に働かせ、活動を工夫してつくっている。	①　植物などの色、布を染めたときにできる形や色、場所などを基に新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。 ②　自分たちが染めた布の色などから、自分の見方や感じ方を広げている。	①　つくりだす喜びを味わい、進んで植物などを使って布を染める活動や、鑑賞する活動に取り組もうとしている。

３　題材について

本題材は、植物などを使って染めた布の色などを基に、新しい形や色などを思い付き、活動を工夫してつくりだしていく造形遊びをする活動を通して、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などにかかわり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育むことをねらいとしている。

草木染は、植物の葉、花、樹皮、根などの天然素材から色素を取り出し、布や糸を染める日本の伝統的な染色技法である。植物の種類や量、染め方などを変えることによって、多彩な色をつくりだすことができる。また、割箸や輪ゴムなどを使ってしぼりを入れて意図的に染まらない部分をつくることで、様々な模様にもなる。そのため、植物の色、布を染めたときにできる形や色などを基に、造形的な活動を思い付くとともに、仲間とかかわりながら新たな活動を工夫してつくりだしていく姿が期待できる。

本題材を学習することは、仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感することにつながるため、意義深い。

４　子どもについて

子どもは、５月題材「絵のぐで　ゆめもよう」において、第５学年の子どもと互いの作品を鑑賞した。その中で、道具の使い方や、形や色の表し方の工夫を見付け、その後の造形活動で、自分の作品に取り入れる姿が見られた。これは、形や色、道具の使い方などといった作品を見る視点を明確にした上で、互いの作品について対話させたり見合ったりする時間を設定したからであると考える。また、６月題材「わすれられない気持ち」において、第２学年の子どもと互いの作品を鑑賞した。その際、「次は１年生と一緒に活動したい」という思いをもつ子どももいた。９月題材「まぼろしの花」においては、自由に仲間と鑑賞する中で、「同じ道具を使うと、似た感じの作品になる。」「種を置く位置が人によって違って面白い。」などと、自分なりの視点で作品を見る子どもも増えてきている。

本児は、自分の思いを明確にもち、何事にも一生懸命に取り組むことができる。一方で、自分の思いを大切にするあまり、周囲が見えなくなり、仲間の思いに気付けない姿も見られる。図画工作科学習においては、発想が豊かで、自分の思いをもち、楽しそうに表現することができる。一方で、自分の表現の根拠にまで思考を巡らせる姿はあまり見られず、その造形的なよさが仲間に伝わっているとは言い難い。また、仲間の活動や作品などに対しての気付きを一方的に話すことも多いため、相手にその造形的なよさが十分に伝わらないことがある。本時では、１年生と一緒に鑑賞する時間を設定する。その際、対話する視点を明確にしておくとともに、実際に試す場や時間を設定しておくことで、１年生が相手でも、根拠をもって、自分の思いを伝えようとしたり、１年生の思いに対し、質問などをしながら根拠を明確にして、その造形的なよさに気付いたりする姿に期待したい。

５　研究内容

本題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿

自分たちが染めた布や１年生がつくりだした色水を鑑賞する中で、既習や経験、仲間と対話したことを基に、造形的な活動（新たな色のつくり方、材料や場所を生かした飾り方など）を思い付く姿。思い付いたことを基に、対話したり試したりしながら、造形的なよさ（植物を使って色をつくりだすことの面白さ、並べたり飾ったりすることの楽しさなど）に気付き、自分の活動を再構成したり、そのよさを改めて実感したりする姿。

１：仲間とのかかわりを通して、自分の活動や作品の造形的なよさを実感するための学習環境の工夫

本題材では、「自然物でつくりだした色」という共通点や、材料や活動に相違点がある「色水遊び」を経験した１年生と合同で鑑賞したり、実際に活動したりする時間や場を設定する。まず、４年生だけで植物を使って布を染める活動をする時間や場を設定した後に、１年生と合同で互いの活動について紹介し合う鑑賞の時間を設定することで、新たな造形的な活動を思い付くことができるようにする。さらに、思い付いたことを実際にやってみることができるようにするために、実習生講義室を自然の色美術館へと変身させる時間や場を設定する。そうすることで、対話したり試したりしながら、互いの活動の造形的なよさを実感することができるようにする。

本時では、１年生と合同で鑑賞し、互いの活動について紹介し合う時間を設定する。その際、互いの共通点や相違点などを探すよう促すことで、似たような植物を使っていても、つくり方や材料によってつくりだされるものの形や色が異なることに気付くことができるようにする。さらに、実習生講義室を自然の色美術館に変身させるためにはどのようなことができそうか、話し合ったり試したりする時間を設定する。その際、「色づくり」「色の使い方」の２つの視点を提示するとともに、前時の活動の様子の写真などを展示しておくことで、自分の活動の再構成の仕方（他の材料や方法で色をつくりだすなど）を考えたり、互いの活動の造形的なよさ（色水や布の並べ方や飾り方などを工夫する楽しさなど）に気付いたりするとともに、新たな活動を思い付くことができるようにする。

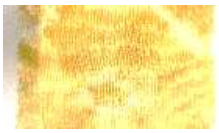
６　題材指導計画（５時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	思・判・表	態
生み出す(2)	1　草木染を施された日用品や藍染の様子を鑑賞し、草木染をする。〈２時間〉 ○　草木染による形や色の感じ ・「絨毯は、糸を１本ずつ染めてから、編んでいるんだね。」 ・「藍染はやったことがある。自然のものでつくった色って貴重なんだね。」等 ○　題材計画 ○　色の染め方や模様の付け方 ・「玉ねぎの皮は、茶色くなりそう。」 ・「割箸で布を挟んだら、白い線が入ると思うんだよね。」　等 ○　染めた布を使った活動の工夫 ・「みんなの布を並べたら綺麗だね。」 ・「他の植物などで、別の色に染めてみたいな。」　等	○　草木染が施された日用品や、職人が藍染をしている様子などを紹介することで、自然とかかわりながらつくられる色が貴重であることに気付くことができるようにする。 ○　玉ねぎの皮と輪ゴムなどを使って基本の染め方を試した後に、色や模様を比較しながら鑑賞する時間を設定することで、互いの染め方の違いに気付くことができるようにする。 ○　他の植物などではどのような色に染まりそうかと尋ねることで、他の色などへの思いをもつことができるようにする。	① 行動分析 発言分析		
本時 挑む(1)	2　１年生と、互いがつくりだしたものを紹介し合い、実習生講義室を自然美術館に変身させるためにできそうなことについて話し合う。〈１時間〉 ○　新たな造形的な活動の発想 ○　互いの造形的な活動のよさ	○　子どもの思い付いた活動を「色づくり」「色の使い方」の２つの視点で整理して掲示するなどしておくことで、新たな造形的な活動を思い付くことができるようにする。		② 行動分析 発言分析	
生かす(2)	3　１年生と、つくりだしたものなどを使って、実習生講義室を自然の色美術館に変身させる。〈２時間〉 ○　自然の色美術館にするための工夫 ・「布を窓に貼ったら綺麗だね。もっと他の色の布も欲しいな。」　等	○　実際に実習生講義室を変身させる時間を設定することで、活動を工夫してつくりだしながら自然の色美術館に変身させ、その造形的なよさを実感することができるようにする。	② 行動分析	①	①

7　本時の目標

１年生がつくりだした色水や、４年生が染めた布などの造形的なよさに気付き、自分の見方や感じ方を広げることができる。

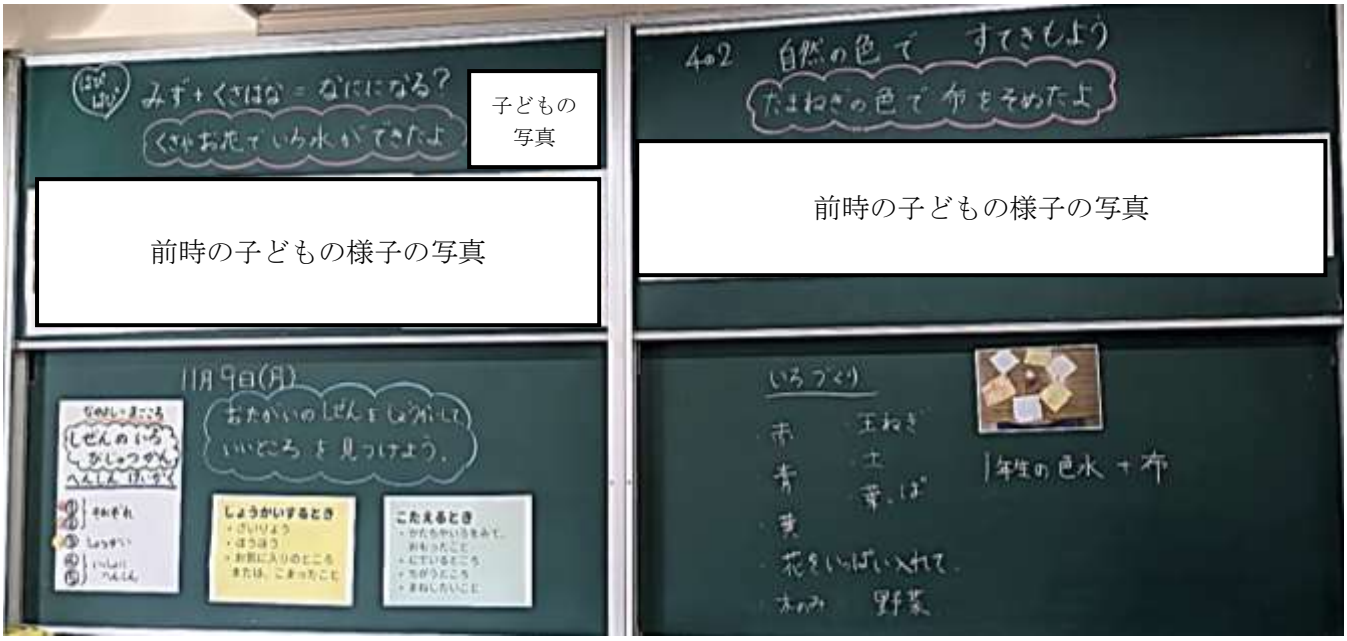
8　本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
1　前時の学習について振り返り、本時の学習について話し合う。 ○　前時の学習 ○　題材の見通し ・次時、２時間で一緒に活動すること ・実習生講義室を自然の色美術館に変身させること ○　本時のめあて お互いの色を紹介して、素敵なところを見付けよう。	○　１年生と４年生がつくりだしたものや活動の様子の写真などを事前に展示しておくことで、自由に鑑賞しながら、互いの「自然物でつくりだした色」に興味をもつことができるようにする。
2　互いがつくりだしたものを鑑賞しながら、どのような活動をしたのかを紹介し合い、互いのよいところを見付ける。（★） ○　色水のつくり方 ・「ぼくは、紫色の花をペットボトルに入れて振ってみたんだけど、全然色が付かなかった。」 ・「確かに色は付いていないけど、花が浮かんでいて、綺麗だよ。」　等  【花の色水】 ○　布の染め方 ・「玉ねぎの皮と水をあたためてから、布を浸けたよ。輪ゴムで巻いたところは、染まらないよ。」  【玉ねぎの皮で染めた布】 ・「綺麗な黄色でいいな。輪ゴムで巻くと、色が付かないんだね。自分もやってみたいな。」　等	○　異学年ペアで以下のような視点でつくりだしたものを紹介し合う時間を設定することで、互いの活動の造形的なよさに気付くことができるようにする。 【紹介するとき】 ・材料　・方法 ・お気に入りのところ　または　困ったこと 【相手によさなどを伝えるとき】 ・形や色などから思ったこと ・似ているところ　または　違うところ ・真似したいこと ○　自分が活動したことについて紹介することが難しい子どもには、４年生から質問するよう促したり、上記の視点に沿って尋ねたりすることで、互いの活動のよさなどについて伝えることができるようにする。
3　自然の色美術館にするために、次時でやってみたいことについて話し合う。 ○　新たな造形的な活動の発想 ・「４年生の布がきれいに染まっていたのがいいなと思ったよ。やってみたいな。」 ・「もっとたくさんの色をつくりたいな。他の花や野菜を使って、温めたらどうなるかな。」 ・「４年生の布に色水のコップをのせると、ジュース屋さんみたいになるね。」 ・「窓の近くに並べたいな。光が当たって、きれいだと思う。」　等	○　前時で活用した材料や用具などを自由に使える場や時間を設定しておくことで、実際に試しながら、その造形的なよさに気付くとともに、自分の活動に取り入れようとすることができるようにする。 ○　次時でやってみたいことを「色づくり」「色の使い方」の２つの視点で整理して掲示するなどしておくことで、自分の活動の再構成の仕方を考えたり、互いの活動の造形的なよさに気付いたりできるようにする。
4　本時の学習について振り返る。 ○　異学年と一緒にやってみて思ったこと	○　互いのよいところや真似したいところについて尋ね、伝え合う時間を設定することで、自分の活動の造形的なよさなどを実感することができるようにする。

9　本時の評価規準

１年生がつくりだした色水や、４年生が染めた布などの造形的なよさに気付き、自分の見方や感じ方を広げている。　（思考・判断・表現②）【発話分析・行動分析】

10　本時の板書


みず＋くさはな＝なにになる？
くさやお花でいろ水ができたよ
子どもの写真
前時の子どもの様子の写真
11月9日(月)
おたがいのしぜんをしょうかいして
いいところを見つけよう。
しょうかいするとき
こたえるとき
4の2　自然の色で　すてきもよう
たまねぎの色で布をそめたよ
前時の子どもの様子の写真
いろづくり
赤　玉ねぎ
青　土
黄　葉っぱ
花をいっぱい入れて
木のみ　野菜
1年生の色水＋布